他者への寛容と心の動揺・友人イメージとの関連
— 日本と米国における児童生徒の比較 —
渡辺 弘純
（愛媛大学教育学部）
キーワード：他者への寛容、比較文化的研究、児童生徒

Relations among tolerance for human diversity, depression and stress, and concept of friend
Hirozumi Watanabe
(Faculty of Education, Ehime University)
Key words: tolerance, cross-cultural study, children

【目的】
日本と米国と中国の児童生徒を対象にして、友人関係における他者への寛容・不寛容を取り上げ、これと心の動揺及び友人イメージとの関連を比較検討することを目的とする。

【方法】
1. 調査への参加者：日本と米国と中国の小・中学校1年生、計778名が調査に参加した。表1. 調査への参加者(人数)

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>小学</th>
<th>中学</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>男</td>
<td>女</td>
</tr>
<tr>
<td>日本</td>
<td>49</td>
<td>53</td>
</tr>
<tr>
<td>米国</td>
<td>42</td>
<td>35</td>
</tr>
<tr>
<td>中国</td>
<td>50</td>
<td>49</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2. 調査の内容：1）仲間への寛容と不寛容：仲間（4人）で何がかかるの活動を計画した折、多少とも変わりない特徴（お調子者、不良外見、暴力を振り抜く者、運動が苦手）を持つ1人の仲間を、その活動に携わることに決めたというシナリオをもとに、Aはこの決定に対する賛否、B当該特徴を変える必要性、C当該特徴を持つ子の類似性を質問した（5件法）。
非類似で排除する場合を不寛容者、非類似で受容する場合を寛容者として区分した。2）「落ち込み」とストレス：「落ち込み」とストレスの類似度を質問した（5件法）。
心の動揺：次の出来事の発生時に活動への影響の程度を質問した（5件法）。A物を盗んで捕まる。Bクラスをついていると疑われる。C悪い成績をとる。D道に迷う。Eクラチで笑いものにされる。F転校する。

3. 友人へのイメージ：10の形容語を挙げ、該当する形容語全てをチェックするように求めた。

【結果】
1. 仲間への寛容と不寛容：1）各特徴の排除得点を、X学年×性別×3要因の分散分析によって検討した。お調子者（暴力）は、米国＞日本＞中国の順に排除されたが、米国では高1が高い（学年差無）のに対して、中国や日本では小4が高い。外見と運動には、国による相違がない。良好外見には、日本と米国で性別差のないのに対して、中国では女子の排除得点が高い。学年差は、運動で高1が高い。2）特徴変更要請得点は、いずれも中国の得点が高い。3）相違点は、お調子者で中国の小4が高い。良い外見で日本が高く、中国や米国では小4より高1が高い。運動が苦手で日本が高い。2. 「落ち込み」：「落ち込み」の類似度は、日本の中でも日本の高1で多く、特に米国の中でも高1で多く認める。
3. 心の動揺：1）物を盗んで捕まる、女子が高い。2）ウソをついていると疑われる。米国と中国が高く、また、女子が高い。3）悪い成績をとる。米国＞中国＞日本の順に高い。また、女子が高い。4）道に迷う。全体としては、米国が日本で高く、また、小4と女子が高い。日本では両学年とも女子が高いが、米国では小4で性差が大きい。一方、中国では小4で性差が大きく、高1では低し、男子が相対的に高い。5）クラスで笑いものにされるのは、いずれの国とも女子が高いが、日本が相対的に低い。6）転校すると、日本＞米国＞中国の順に高く、日本の低さが特徴的な。
4. 友人イメージ：友人イメージのデータ作成分分析し、バリアックス回転した。第1因子、自尊足（だらしない、いらいかなるなど）と第2因子、誠実（責任がある、注意深いなど）が見出された。自尊足は、相対的に低く、性差があり、女子が高い。日本では小4が高く、米国では高1が高いのでに対して、中国では学年差が顕著でない。
5. 不寛容者と寛容者の比率（%）

表2. 不寛容者と寛容者（%）

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>調査者</th>
<th>外見</th>
<th>暴力</th>
<th>運動</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>日本</td>
<td>15.5</td>
<td>10.9</td>
<td>25.5</td>
<td>11.4</td>
</tr>
<tr>
<td>宽容</td>
<td>26.8</td>
<td>62.7</td>
<td>41.8</td>
<td>35.0</td>
</tr>
<tr>
<td>米国</td>
<td>28.1</td>
<td>5.2</td>
<td>45.5</td>
<td>23.4</td>
</tr>
<tr>
<td>宽容</td>
<td>22.6</td>
<td>38.1</td>
<td>31.1</td>
<td>36.5</td>
</tr>
<tr>
<td>中国</td>
<td>12.0</td>
<td>10.5</td>
<td>16.2</td>
<td>17.3</td>
</tr>
<tr>
<td>宽容</td>
<td>41.4</td>
<td>46.6</td>
<td>44.5</td>
<td>34.6</td>
</tr>
</tbody>
</table>

6. 寛容・不寛容と「落ち込み」・ストレスの関連：人数が少ないため、性別を含めて分析した。1）お調子者：不寛容で、「落ち込み」（特に中学生）とストレス（特に中国）が高い。2）良い外見：不寛容でストレスがある。3）暴力：大きな相違は認められず。4）運動苦手：不寛容で、小4は「落ち込み」が大きく、高1ではそう言えなかった。不寛容で、ストレスが大きい。
7. 寛容・不寛容と心の動揺：1）お調子者：物を盗んで捕まる、中の中の不寛容で高1が高い、米国の中の不寛容が低い。ウソをついていると疑われる。日本の不寛容で小4が高く、中米の不寛容で高1が高い。クラスで笑いものにされる、日本の中の不寛容で高1が高い。転校は、日本の不寛容で高1で高1は扱いが低い。2）良い外見：ウソをついていると疑われる、日本の不寛容・不寛容間に相違はないが、日本の不寛容で高1が高い。3）暴力：物を盗んで捕まる、ウソをついていると疑われる（特に小4）。道に迷う、クラスで笑いものにされる、不寛容で高い。4）運動苦手：クラスで笑いものにされる、不寛容で高い。
8. 寛容・不寛容と友人イメージ：1）お調子者：自尊足に比べて不寛容で高い。誠実について、日本では、小4で差がないが、高1では寛容が高いのに対して、中国では、小4で寛容が高く、高1で不寛容が高い。2）良い外見と暴力と運動苦手。不寛容と寛容間に大きな相違はない。

— 1194 —